

地域包括ケアシステムにおける高齢者支援事業のアウトカム評価指標の試案 ーロジックモデルを用いた指標設定とパイロット調査の実施事例ー

○ 昭和女子大学 熊谷 大輔 (8332)

李 恩心 (昭和女子大学・5993)

キーワード3つ：地域包括ケアシステム、アウトカム評価、ロジックモデル

1. 研究目的

地域包括ケアシステムの推進に伴い、自治体における高齢者支援事業のアウトカム評価の方法、および評価結果の活用に課題が生じている。例えば、具体的な評価指標の不足や、評価結果を地域施策にどのように反映させるかという点が挙げられる。

本研究は、これらの課題に対処するため、自治体の高齢者支援事業を対象とし、地域の現状分析に基づき、ロジックモデルを用いたアウトカム評価指標の開発を目指し、地域包括ケアシステムの実行性を高めるためのパイロット調査を実施することを目的とした。

2. 研究の視点および方法

本研究は、A市B区より高齢者支援事業のアウトカム評価に関する指標作成の依頼を受け、2024年10月から2025年3月までの期間で実施した。アウトカム評価においてはロジックモデルを用いた。ロジックモデルの作成においては、B区の地域情報や高齢者支援事業の実施状況等も踏まえ、B区の担当者との打ち合わせを複数回実施し、試案を作成した。作成したロジックモデルの指標の検討のため、2025年3月に地域住民（高齢者）を対象にアンケート調査を実施し、その結果を分析した。アンケート調査の対象者は34名であった。

3. 倫理的配慮

本研究の実施にあたっては、調査対象者に対して事前に研究の目的および方法について十分に説明を行い、権利の尊重と調査協力への任意性を保証し、協力拒否、辞退による不利益は生じなく、得られたデータは統計的に処理することで個人は特定されず、自由意志に基づき同意を得た上で調査を実施した。また、本研究の実施および学会での発表については、協力いただいたA市B区からの承認を得ており、本研究による利益相反（COI）はない。本研究での調査は調査協力者の生活環境に関する一般的な質問であり、医学的・心理的介入を伴わないことから、研究倫理審査の受審をしていないものである。

4. 研究結果

まず、A市B区の高齢者支援事業のアウトカム評価指標を検討するため、ロジックモデ

ルを作成した。このロジックモデルでは、事業を通じて最終的に目指す最終アウトカム目標を「誰もが生きがいを持って安心して自分らしい地域生活を維持できる」と設定した。この最終アウトカムを達成するための段階として、中間アウトカムには「健康寿命の延伸と地域活性化の取り組み」「住民が安心してサービスを受けられる地域づくり」「尊厳と自己決定を重視した支援体制」「適時のサービス提供体制」の4つを柱として設定した。さらに、これらの中間アウトカムを達成するためのより具体的な目標として初期アウトカムを、中間アウトカムとの因果関係を考慮して設定した。そして、これらの初期アウトカムを達成するために実施されるアクティビティ・アウトプットにはB区の高齢者支援事業全体を位置付けた。

次に、最終アウトカム項目、中間アウトカム項目、初期アウトカム項目に関する指標を設定した。最終アウトカム指標としては、生活満足度、事業の効果認識度、生きがい程度、地域生活継続意向、介護等サービスの充実への期待度を設定した。指標候補の検討のため、地域住民（高齢者）34名を対象にアンケート調査を実施した。分析では各項目間の関連性を把握するため、項目ごとの相関行列による分析を実施した。結果、いくつかの項目間に統計的に有意な相関関係が見られた。具体的には「安心して生活するための介護サービス利用」と「生きがいを持つための介護サービス利用」には強い正の相関（相関係数.750, $p<.01$ ）があり、「地域生活の継続のための介護サービス利用」と「生きがいを持つための介護サービス利用」にも強い正の相関（相関係数.728, $p<.01$ ）が見られた。

5. 考察

高齢者の介護サービス利用の動機や目的は複合的であり、高齢者が介護サービスを利用する際に、「生きがいを持つこと」や「地域生活を続けること」といった目的を相互に関連付けて捉えていることが示唆された。つまり、高齢者が介護サービスを単なる身体的なケアや支援としての利用だけでなく、地域での生活を継続し、生きがいのある生活を送るための手段として捉える傾向にあることが示唆された。

また、高齢者のサービス利用に関する意識や地域生活への意向が、本研究にてロジックモデルを活用して設定した最終アウトカム目標である「誰もが生きがいを持って安心して自分らしい地域生活を維持できる」や、最終アウトカム指標である生活満足度、生きがい程度、地域生活継続意向と関連していることから、地域の実情や住民の視点を踏まえ、ロジックモデルを用いて事業が目指すべきアウトカムを明確にしながら、指標を設定することの重要性が改めて裏付けられた。

本調査は限られた地域と対象者による分析ではあるが、地域における高齢者のサービス利用意識や生活に関する多面的な関連性をデータに基づいて明らかにし、ロジックモデルに基づくアウトカム評価の実装に向けた指標開発の方向性を示す上で重要な役割を果たしたと考える。